



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス



取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに株主通信「YBHD NEWS」第29号をお届けいたします。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による景気後退から回復の途上にありますものの、欧州の財政金融危機の顕在化や米国経済の低迷等に起因した海外経済の減速や円高の長期化等により、景気の先行きは不透明なまま推移いたしました。

当社グループを取り巻く現下の事業環境につきましても、公共投資および民間設備投資の低迷による受注競争の激化など、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、グループ企業間の連携を一層強化し、受注量の確保およびコスト削減に注力し、業績の向上を図ってまいります。

役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年2月

平成24年1月30日に、平成24年3月期第3四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介申し上げます。

連結経営成績(累計)

	平成24年3月期第3四半期	平成23年3月期第3四半期
売上高	51,590 百万円	56,539 百万円
営業利益	1,478 百万円	3,206 百万円
経常利益	1,572 百万円	3,838 百万円
四半期純利益	205 百万円	2,090 百万円

当社グループの当第3四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)の総受注高は、487億6千万円(前年同期比17.9%増)となりました。セグメント別の受注高といたしましては、橋梁事業366億円(同22.4%増)、建築環境事業114億6千万円(同14.8%増)、先端技術事業6億9千万円(同52.6%減)となりました。

決算面につきましては、当第3四半期累計期間の売上高は515億9千万円(前年同期比8.8%減)、営業利益は14億7千万円(同53.9%減)、経常利益は15億7千万円(同59.0%減)、四半期純利益は2億円(同90.2%減)となり、前年同期に比べますと減収減益となりました。セグメント別の売上高といたしましては、橋梁事業387億7千万円、建築環境事業107億1千万円、先端技術事業13億9千万円、不動産事業7億円となりました。

橋梁事業は、豊富な手持ち工事量を背景に、当第3四半期から

工場製作の生産量は増加いたしましたものの、一部の工事の着工が遅れるなどの理由で現場工事の施工高が伸びなかったため、第2四半期までの落ち込みを取り戻すことはできませんでした。また、昨年度に受注した採算の厳しい工事の生産量が増加したため、利益率の低下を避けることができず、セグメント利益は16億4千万円(前年同期は36億4千万円の利益)となりました。建築環境事業のうち、建築事業と環境事業については受注・売上とも停滞気味ですが、システム建築事業は受注増に伴い売上高が増加し、受注単価にも改善がみられたため、セグメント利益は3億4千万円(前年同期は1千万円の損失)と大幅に黒字化いたしました。先端技術事業は、売上高の減少に伴いセグメント利益は7千万円の損失(前年同期は1億5千万円の利益)となりました。

平成24年3月期の連結業績予想 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	平成24年1月30日発表	平成23年12月26日発表
売上高	77,000 百万円	77,000 百万円
営業利益	1,200 百万円	1,200 百万円
経常利益	1,270 百万円	1,270 百万円
当期純利益	50 百万円	50 百万円
1株当たり当期純利益	1円 13銭	1円 13銭

平成23年12月26日に法人税法等の改正に伴い繰延税金資産の取崩しを見込み、当期純利益の予想をそれまでの600百万円から50百万円に修正いたしました。

Topics 1

大栄ジャンクション Aランプ橋(鋼上部工)工事

横河工事株式会社より、東関東自動車道「大栄ジャンクションAランプ橋(鋼上部工)工事」についてご紹介いたします。

本工事は、千葉県成田市に位置し、圏央道(首都圏中央連絡自動車道)と東関東自動車道とを接続する大栄JCT建設工事のうち、高速道路を跨ぐ新設橋梁3連の製作架設、旧橋1連の撤去工事が主な工事内容となります。

圏央道は、首都圏の道路交通の骨格として、今からおおよそ40年前に、都心から半径およそ40km~60kmの位置に計画された、延長約300kmの高規格幹線道路で、横浜、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京湾アクアライン、東京外かく環状道路などと一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成する首都圏3環状道路の、一番外側に位置する環状道路となります。

本橋の施工にあたっては、4連共に高速道路を跨ぐことから、通行止めにより架設・撤去を行います。施工計画にあたっては、道路利用者および社会的影響を考慮した上で、1夜間で2連同時施工とし、規制日数を大幅に低減いたしました。

橋桁は地組みヤードで予めブロック化し、鋼製型枠床版、落下物防止柵まで組立を行い、交通量の少ない平日の夜間に高速道路を通行止めし、多軸式移動台車による一括架設、大型クレーンによる大ブロック架設工法により、昨年12月13日に10号橋、稲荷峰橋の夜間一括架設を実施いたしました。工事

に際しては、発注者である東日本高速道路株式会社様のご支援のもと、関係機関との調整、リスクの洗い出しとその対策、模擬試験等を実施したこともあり、厳しい制約条件のなかでも、予定時間を短縮し、且つトラブルも無く完了することができました。

今年の4月10日には、残りの2連(Aランプ橋架設・稲荷峰旧橋撤去)の施工があります。今回以上に難しい条件下での施工となるため、綿密な計画、管理のもと無事故無災害で工事を進めてまいります。

橋梁形式

- 10号橋 : 橋長40.0m・鋼重122.1t・鋼単純鉸桁橋
- Aランプ橋 : 橋長49.0m・鋼重154.5t・鋼単純曲線箱桁橋
- 稲荷峰橋 : 橋長45.0m・鋼重 65.0t・鋼単純箱桁橋
- 稲荷峰旧橋撤去 : 橋梁43.2m・PC斜材付 π ラーメン橋



多軸式移動台車による一括架設(10号橋) 大型クレーンによる大ブロック架設(稲荷峰橋)

Topics 2

橋梁の耐震補強製品について

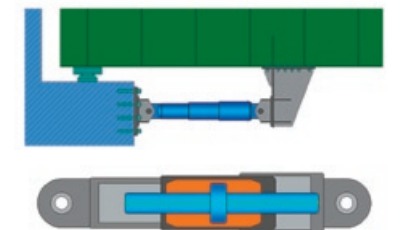
昨年、3月11日の東日本大震災によって東北地方から関東地方にかけて甚大な被害が発生しました。そのような大災害のなか橋梁の被害は津波の被害を受けた沿岸地域を除くと地震規模の割には最小限でありました。この理由として阪神大震災以降、橋梁の耐震設計基準が大きく向上し、また震災前に建設された橋梁も、阪神大震災に耐えられるように補強工事を実施した成果であります。

今回、ご紹介する製品は、阪神大震災以降、YBHDグループが開発を続けてきた橋梁向けの耐震補強製品です。耐震補強製品には大きく分けて、橋梁に作用する地震のエネルギーを吸収する制震デバイスと、地震により橋桁が橋脚から“落橋”することを防止する装置の2種類からなります。

制震デバイスには、鋼材の変形特性を利用したシンプルで高耐久な鋼製の製品と粘性オイルを用いた高性能な製品の5製品があります。

また、落橋を防止する製品には、ケーブルやチェーンを使用し、橋桁を橋台や橋脚などの下部構造に繋ぎ止める落橋防止装置、地震時の橋桁の移動量(変位量)を抑制する部材である変位制限装置、段差防止装置があります。

既に建設済みの橋梁の多くは耐震補強が未完了で、今後も耐震補強工事は継続して実施されます。当社グループの耐震補強製品が広く採用されるように営業活動を展開してまいります。



制震デバイス「パワーダンパー」



落橋防止装置「パワーチェーン」

制震デバイス製品一覧

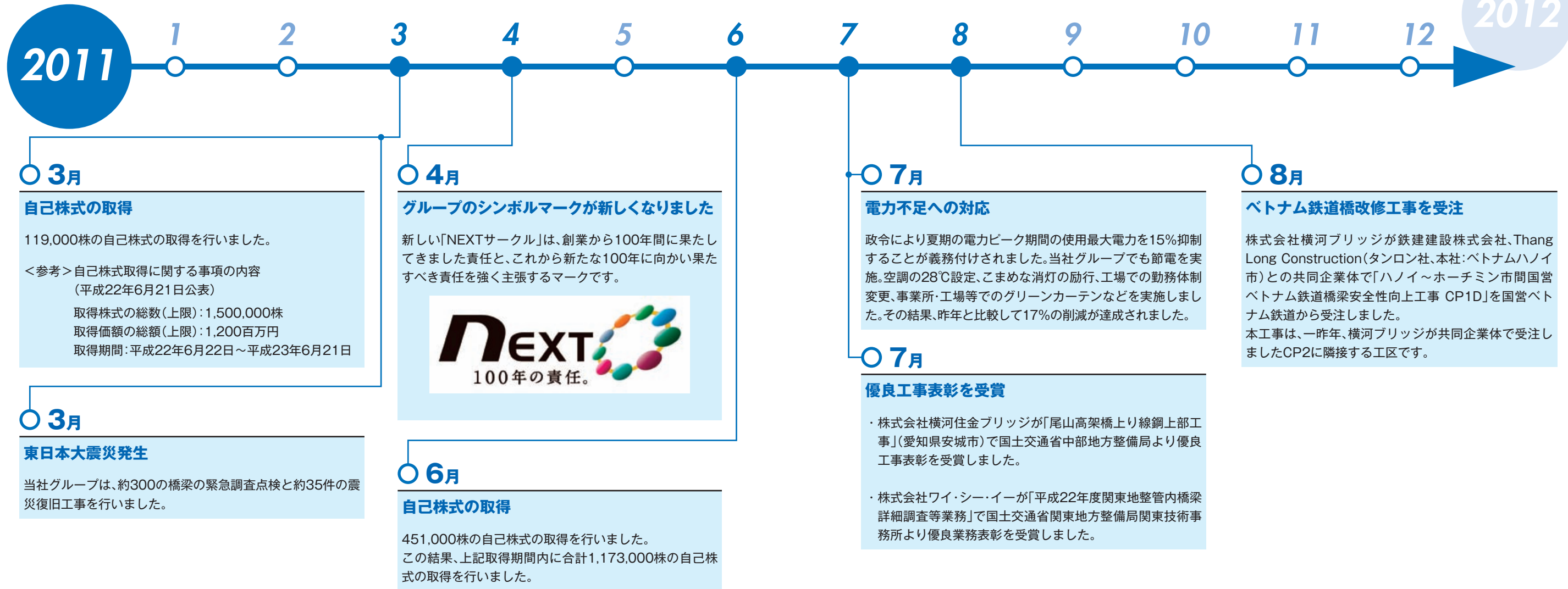
種別	製品名	製造会社
鋼製	制震ストッパー	横河ブリッジ
	ねじりリンクダンパー	
	ガセットダンパー	
	SUB(座屈拘束ブレース)	
粘性オイル	パワーダンパー	横河ブリッジ

落橋を防止する製品一覧

種別	製品名	製造会社
落橋防止装置	ピン定着型落橋防止	横河ブリッジ
	パワーチェーン	
変位制限装置	パワーストッパー	横河ブリッジ
段差防止装置	パワースタンド	

東日本大震災の発生と福島第1原子力発電所の事故、さらには台風被害などに襲われた2011年の日本。海外では、ニュージーランドやトルコでの大地震、タイの洪水などの自然災害の発生、さらには欧州の金融不安の深刻化や米国の景気停滞などがありました。

2011年の当社グループの主な出来事を振り返りました。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人(※1)	東京都港区芝三丁目33番1号 〒105-8574 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120(78)2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店(※2)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他 やむを得ない事由によって電子公告による公 告をすることができない場合は、日本経済新聞 に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

(お知らせ)

(※1)当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社は、関係当局の許認可を前提に、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と平成24年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。なお、平成24年4月1日(日)は、株主名簿管理人の休業日につき、実際のお取扱いは、平成24年4月2日(月)からとなります。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先・電話照会先
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所、電話番号の変更はございません)

(※2)日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、平成24年3月末をもって終了させていただきます。

YBHDグループ

-  **株式会社 横河ブリッジホールディングス**
グループ全体の経営管理
-  **株式会社 横河ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造
-  **横河工事株式会社**
土木・建築・保全
-  **株式会社 横河システム建築**
システム建築・開閉式建築システム・環境
-  **株式会社 横河住金ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・セグメント
-  **株式会社 榑崎製作所**
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品
-  **株式会社 横河技術情報**
情報処理サービス・ソフトウェア開発
-  **株式会社 横河ニューライフ**
不動産管理・情報システム・人材派遣
-  **株式会社 ワイシーイー**
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

※表紙の写真は、東関東自動車道大栄ジャンク
ションAランプ橋(鋼上部工)工事、多軸式移動
台車による10号橋一括架設状況(橋長40m)